



トラブルシューティング — 保持時間再現性が悪い

保持時間の再現性の問題は、移動相の組成、ポンプ、リーク、カラムコンパートメントの温度に関係する可能性があります。ポンプの不調の場合は、圧力は不安定になっているはずで、圧力が不安定の項目も参照してください。

以下の項目を確認しましょう。

- ポンプの圧力が変動していないか？
- カラムコンパートメントがオンになっているか？
- カラムコンパートメントの温度は安定しているか？
- 流路のどこかでリークしていないか？
- 流路のどこかで部分的に詰まっているか？
- 分析前の平衡化時間が短くないか？（特にグラジエント分析の連続時）
- 移動相は調製後に良く攪拌したか？
- 移動相のバッファの濃度が正しいか？

原因として考えられることを挙げます。

- ポンプの不具合。大抵は圧力変動を伴う。
- カラムコンパートメントがオンになっていない。
- カラムコンパートメントの温度が安定していない。
- 流路のどこかでリークしている。
- 流路のどこかで部分的な詰まりがある。
- 分析前の平衡化時間が足りない。グラジエント分析の連続の場合ポストタイムが足りない。
- 溶媒ボトル内の移動相がよく攪拌されていない。
- 溶媒ボトル内の液の温度が気温により変化している。
- 移動相の緩衝能が足りないかpH調整が不適切。

保持時間再現性が悪い時は、まずポンプの調子が悪くないか確認します。保持時間再現性が悪い時はポンプが安定して送液できていない可能性があります。ポンプに異常な圧力変動がないか確認します。

保持時間の安定には、カラムの温度が一定であることが必要です。温度プロット等でカラム恒温相の温度が安定しているか確かめる必要があります。

分析開始前の平衡化時間が足りないと保持時間が変動します。分析前に十分に平衡化時間を取ってください。グラジエント分析を連続で実施する場合は、メソッドの設定で十分なポストタイムを取るようになしてください。

まれにあるのが溶媒ボトル内の移動相が混和されていないケースです。溶媒を調製するときは十分振とうしましょう。

ご不明な点は、カスタムコンタクトセンターまで（電話受付 9:00～12:00、13:00～18:00 土、日、祝日は除きます）

電話  0120-477-111

E-mail: email_japan@agilent.com

FAX  0120-565-154

<http://www.agilent.com/chem/jp>